

1 沿革と概況

1-1 まちの歴史

古代

BC 5000～4000 南高野貝塚が形成される。この頃の生活の遺跡が市内各地に現存している。

AD 713 常陸国風土記が編集される。密筑（水木）、助川、賀毗礼、仏の浜などに関する記事がその中にみられる。

中世・近世

1131 新羅三郎義光の孫、昌義が佐竹に土着永住して佐竹氏を称し以来400年間常陸国を統治する。

1575 この頃、佐竹氏、宮田の赤沢鋤床を掘る。

1602 佐竹氏秋田へ移封される。

1609 日立地方、水戸藩領となる。

1625 赤沢鋤床で銅が採掘される。なお、この頃の産業活動として金採掘、寒水石、砥石の産出を始め、鯉漁や製塩が行われる。

1645 この頃から水戸藩の海防政策が実施にうつされ、日立地方にも異国船番所や海防陣屋などが次々と設置される。

1669 徳川光圀、大雄院の再興を図る。

1836 徳川斉昭、家老山野辺義観を海防総司に任じ、尊攘運動の一環として助川に城堡を築かせる。

1839 水戸藩郷校暇修館が開かれる。

1864 水戸藩内天狗諸生の党争に日立地方の同志も多く参加し、その戦乱によって助川城堡が陥落する。

近代

1871 (明治 4年) 廃藩置県により、日立地方は茨城県の管轄となる。

1883 (〃 16年) 天童山大雄院が焼失する。

1889 (〃 22年) 町村合併が実施され、日立地方に2町10村ができる。
多賀郡日立村ができる。

1897 (〃 30年) 常磐線助川駅が開駅する。

1905 (〃 38年) 久原房之助が赤沢銅山を日立鋤山として創業する。

1910 (〃 43年) 小平浪平が日立製作所を設立する。

1924 (大正13年) 日立電線株式会社の前身である電線工場が、日立製作所によって設立される。
多賀郡日立村が多賀郡日立町になる。

1939 (昭和14年) 日立町と助川町が合併して日立市となる。

1940 (〃 15年) 市の紋章を制定する。

1944 (〃 19年) 人口9万余を数える県下最大の都市となる。

1945 (〃 20年) 終戦直前、爆撃、艦砲射撃、焼夷弾攻撃など相次ぐ戦災により、全市の約7割が灰となる。

現代

1946 (昭和21年) 日立市戦災復興事業に着手する。

1948 (〃 23年) 日立水道株式会社が市営となる。
かみね公園の整備に着手する。

1949 (〃 24年) 日立市民の歌を制定する。

1955 (〃 30年) 日立市に多賀町、日高村、久慈町、中里村、坂本村、東小沢村が編入合併し、新日立市が誕生する。

1956 (〃 31年) 豊浦町が編入合併する。

2 沿革と概況

- 1957 (〃 32年) 日立市を中核とする7市2町2村が東京通産局から常陸工業地帯に指定される。
日立港の起工式が行われる。
- 1960 (〃 35年) 日立港後背地2, 145, 000平方メートルが、土地区画整理事業区域として建設大臣の認可を受ける。
- 1962 (〃 37年) 交通安全都市の宣言をする。
「記念図書館」開設する。
- 1965 (〃 40年) 日立港背地第二次開発計画に着手する。
「日立市民会館」開設する。
群馬県桐生市と国内親善都市提携を宣言する。
- 1967 (〃 42年) 日立港が開港し、重要港湾に指定される。
- 1969 (〃 44年) 公共下水道事業に着手する。
- 1970 (〃 45年) 重度心身障害児のための施設「太陽の家」開設する。
- 1975 (〃 50年) 特別養護老人ホーム「日立市萬春園」開園する。
「日立市郷土博物館」開設する。
- 1977 (〃 52年) 市の花「サクラ」、市の木「ケヤキ」を制定する。
- 1978 (〃 53年) 心身障害者スポーツセンターと福祉作業所を開設する。
- 1980 (〃 55年) 常磐自動車道の日立トンネル(2.4km) 工事着手する。
「清掃センター」稼動する。
- 1981 (〃 56年) 「教育会館」開設する。
日立鉱山閉山する。
公設地方卸売市場を開設する。
- 1982 (〃 57年) アメリカ合衆国アラバマ州バーミングハム市と姉妹都市を提携する。
知的障害者更生施設「日立市大みかけやき荘」開設する。
- 1983 (〃 58年) 日立銀座モールが完成する。
余熱利用施設として日立市民プールを開設する。
- 1985 (〃 60年) 常磐自動車道が日立北インターチェンジまで開通する。
日立共同福祉施設「ホリゾンかみね」開設する。
核兵器廃絶・平和都市宣言をする。
- 1986 (〃 61年) バーミングハム市から市のシンボルである「バルカン像」が贈られる。
- 1987 (〃 62年) 茨城厚生年金健康福祉センター「サンピア日立」開設する。
- 1988 (〃 63年) ニュージーランド国タウランガ市と姉妹都市を提携する。
- 1989 (平成元年) 市制施行50周年
市の鳥「ウミウ」を制定する。
- 1990 (〃 2年) 「日立新都市広場」開設する。(愛称パティオ日立)
「日立シビックセンター」開設する。
- 1991 (〃 3年) 助川町の山林火災で、約217ヘクタールの林野が焼失する。
- 1993 (〃 5年) 大煙突が崩壊する。
日立中央インターチェンジが開通する。
- 1994 (〃 6年) 「奥日立きららの里」開設する。
- 1995 (〃 7年) 戦後50周年を記念して、平和の鐘が日立駅前広場に建てられる。
日立北部工業団地が完成する。
- 1996 (〃 8年) 「新修日立市史」(上・下巻)を刊行する。
南極観測船しらせが日立港に寄港する。
- 1997 (〃 9年) 「教育プラザ」開設する。
- 1999 (〃 11年) 「旧共楽館」が登録有形文化財として登録される。

- 「日立地区産業支援センター」開設する。
- 2000 (// 12年) 複合老人福祉施設「かねはた」開設する。
「日立市保健センター」開設する。
- 2001 (// 13年) 第13回さくらサミットINひたち開催される。
国道6号日立バイパス(田尻・河原子線)開通する。
新ごみ処理施設「エコクリーンかみね」稼動する。
- 2002 (// 14年) ごみ収集の有料化(指定ごみ袋・ごみ処理券)がスタートする。
日立港で北朝鮮船籍チルソン号が座礁する。
- 2003 (// 15年) 市のさかな「さくらダコ」を制定する。
県道日立東海線が開通する。
「金砂大田楽」が公開される。
- 2004 (// 16年) 「久慈川日立南交流センター」開設する。
「吉田正音楽記念館」開設する。
山形県東村山郡山辺町との友好都市提携調印式が行われる。
十王町との合併協定調印式が執り行われる。
日立市に多賀郡十王町が編入合併し、新日立市が誕生する。
- 2005 (// 17年) 日立電鉄線が廃止される。
環境都市宣言をする。
ケーブルテレビ局が開局する。
- 2006 (// 18年) 「多賀市民プラザ」開設する。
子育て支援施設「子どもすくすくセンター」開設する。
「茨城県県北生涯学習センター」開設する。
- 2007 (// 19年) 日立市のイメージマーク、キャッチコピー及びイメージカラーを制定する。
かみね動物園が開園50周年を迎える。
「河原子北浜スポーツ広場」開設する。
- 2008 (// 20年) 「消防拠点施設」開設する。
「十王交流センター」開設する。
- 2009 (// 21年) 「たかはら自然体験交流施設」開設する。
- 2010 (// 22年) 「全国鶏飼サミット日立大会」が開催される。
- 2011 (// 23年) 「東日本大震災発生」日立市は震度6強
3月11日(金)午後2時46分東北・三陸沖を震源とする国内観測史上最大(マグニチュード9.0)の極めて強い地震が起こる。
「日立駅自由通路及び橋上駅舎」開設する。
- 2012 (// 24年) 「常陸多賀駅前広場」リニューアルされる。
「日立駅情報交流プラザ」開設する。
- 2013 (// 25年) 「ひたちBRT(新交通)」が運行開始する。
「山側道路」全面開通する。
「南部図書館」開設する。
- 2014 (// 26年) 「日立おさかなセンター」が道の駅に認定される。
十王町との合併10周年を迎える。
- 2015 (// 27年) 「子どもセンター」開設する。
- 2016 (// 28年) 「多賀消防署新庁舎」開設する。
- 2017 (// 29年) 「池の川さくらアリーナ」開設する。
「日立市役所新庁舎」開設する。
- 2018 (// 30年) 「ひたちBRT第Ⅱ期区間(一部暫定)」開通する。

4 沿革と概況

- 2019 (令和元年) 「鳩が丘さくら福祉センター」開設する。
茨城県で国民体育大会が開催され、天皇・皇后両陛下が日立市に行幸啓になる。
- 2020 (// 2年) 「南部消防署」開設する。
- 2021 (// 3年) 「日立シビックセンター科学館」がリニューアルオープンする。
日立総合病院の「地域周産期母子医療センター」が12年ぶりに再開する。
- 2022 (// 4年) 「久慈サンピア日立」がリニューアルオープンする。
かみね動物園新猛獣舎が完成する。
- 2023 (// 5年) 日立駅前大型商業施設「ヒタチエ」がリニューアルオープンする。
「会瀬スポーツ広場」開設する。
「令和5年台風13号に伴う線状降水帯による豪雨発生」
線状降水帯の発生により、1時間雨量97mm、24時間雨量268mmという本市観測史上最大の降雨量を記録した。
- 2024 (// 6年) 十王町との合併20周年を迎える。